

心花

2024年4月15日第1号

西南中生徒指導部通信

文責 松浦

心の器

一気に咲き誇った桜の花びらが散り、正門からの通路が桜の絨毯になってスタートした新年度、早くも一週間が経ちました。この新年度から生徒指導を担当することになりました松浦と申します。よろしくお願ひします。今年度、日々の生徒たちの高まりや、生徒達を教える大人への「想い」や「こだわり」等も便りにしていきたいと思ひます。不定期発行になるかも知れませんが、また、つたない文章になりますが、よろしくお付き合ひください。さて、西南中では学校教育目標として、「凡事徹底」、そして「自己への挑戦」、「他への貢献」を掲げて活動していきます。この合言葉は生徒達にもすつかり浸透しているようです。

また、西南中の生徒達の間では、「爽」「研」「美」という生活スローガンもすつかり浸透しています。「爽」は、爽やかな挨拶・返事をしよう。「研」は、時間感覚を研ぎ澄まそう。「美」は、自分を美しく、周りを美しくしよう、といったものです。

これらの目標を合わせて考えると、挨拶・返事をする、時間を守る、身なりや言葉遣い、環境を美しく整えるといった、人として大切な当たり前のことを当たり前にする、それが社会人としての自立に向かう「自己への挑戦」であり、周りに迷惑をかけない、みんなのためになる「他への貢献」であると考えています。そのような取り組みを一生懸命頑張る人を認め、支え、高め合う仲間がいる【安心して安全に過ごせる学校】を目指しています。

中学校では、将来社会に出ていくために必要な力を身につけ、大人になるための準備をするところです。そこで「心の器」が必要になってきます。

例えばコップを想像してください。コップに水を入れて飲みたい時、それに「ひび」が入っていたら、水は漏れて役に立ちません。それだけ注いでも、漏れていくので溜まることはいけません。同じように、私たちの心の中にも、

学んだことを入れておくコップ(器)があるのです。私はそれを『心の器』と呼んでいます。それは、幼い頃は骨組みだけで、スラスラです。そこから父母や祖父母等の愛情を受け、骨組みに一枚一枚丁寧に紙が貼られ心の器が作られていきます。純粹で素直な気持ちが高い幼い頃は、見るもの聴くもの全てが新鮮で、ひびもないので漏らすことなく溜めていきます。

ところが中学生ぐらいになると、人によっては「素直になれない心」が芽生え、それが邪魔して自分でも気づかないうちに心の器にひびが入ったり穴が空いたりします。そこにいくら水を注いでも、溜まりません。せつかく誰かが入れて上げた水も溜まらない…。

これを中学校生活に置き換えると、「水」助言、「ひび」強情さ、頑なさと言えらるでしょう。もちろん、世の中に完全な人はいません。大なり小なり「ひび」があるものです。しかし、そのひびに気づいている人は意外と少ないものです。そこで、人生の先輩である大人がそのひびに気づいてもらおうと助言した時に、その人がどう受け取るか、が大事になります。『心の器』は、素直な気持ちで「気づかせてもらったことに感謝し、次から頑張ろう」と思うだけで、ひびがサツと修復されるものです。

だからこそ、今の時期に大事なことは、自分のことを本気になって応援してくれたり、助言をくれたりする方に対しての『素直な心』なのです。素直な心の状態とは、まず心の器が倒れず立っていることです。倒れていけば、溜まるどころか、一滴も入っていきません。

皆さんは大人になっていくにつれ、父母から離れ、だんだん自分を叱ってくれる人が少なくなりますが、大人になった時、自分で正しい判断をして生きていく力を身につけなければなりません。それがまさに今、中学生の時期なのです。だからこそ、本気で助言をくれる人を大切に想う素直な心が、あなたの未来を幸せにするものです。

そこで西南中は、今年度から生活目標を週替わりで掲げていきます生徒の皆さん、第二週目は、「先取り挨拶」からのレベルアップ、「大きな声で爽やかに挨拶しよう」「爽やか挨拶」を目標とします。意識して取り組み、それを習慣化させてください。